

1 国語

分析の概要

各領域及び言語事項それぞれの指導の重点化と互いに関連を図った指導が重要

教科全体の平均到達度は59.1%である。問題の難易度も考慮すべきではあるが、各領域及び言語事項についての指導は重点化と関連を図ることが重要である。領域ごとに見ると、読むことの領域が60.9%で最も高く、次いで言語事項が58.5%、最も低かったのは書くことの領域で53.5%という結果であり、特に書くことの領域についての指導の充実が求められる。

内容については読むことの領域で構成をとらえることや、文脈に即した内容の理解に課題が見られ、書くことの領域では条件に沿って書くことに課題が見られた。今後の指導に当たっては、読むことの領域では文脈に即して内容をとらえさせる指導、展開をとらえさせて内容を理解させるなどの指導が必要である。また、書くことの領域では、特に条件に沿って文章を書かせる指導、書くための材料を集め、それを適切に選択する力を養うことなどが大切である。言語事項については、漢字の読み書き、主述の関係等について各領域との関連を図りながら確実に定着させるよう指導する必要がある。

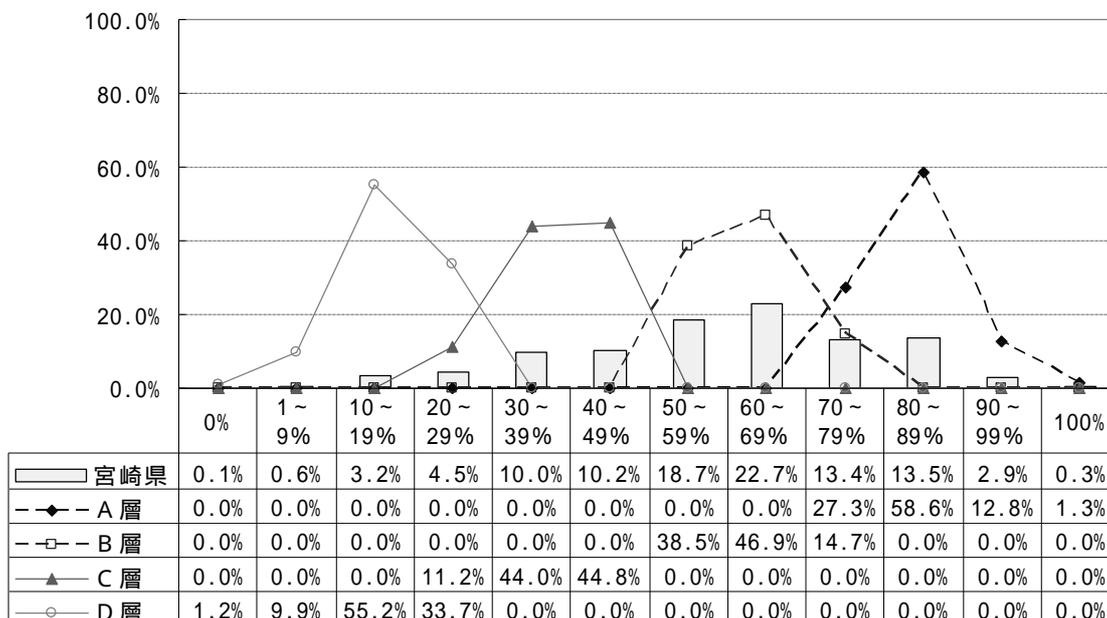
項目別平均到達度

項目		全県(%)	A層(%)	B層(%)	C層(%)	D層(%)	
平均到達度	教科全体	59.1	83.5	62.2	38.4	17.4	
	観点	書く能力	53.5	81.6	55.0	32.1	13.8
		読む能力	60.2	82.1	63.1	41.9	21.3
		言語についての知識・理解・技能	59.4	85.0	63.1	37.1	15.1
	領域	書くこと	53.5	81.6	55.0	32.1	13.8
		読むこと	60.9	82.2	63.5	43.4	23.8
		言語事項	58.5	85.4	62.6	34.6	11.3

* 到達度は児童生徒が正答、準正答であった問題数の割合を表わし、平均到達度はその平均となる。

* 観点・領域のA層～D層は、教科全体の最高到達度と最低到達度を均等に4段階のポイントに分け、上位から順にA層～D層としたそれぞれの観点・領域の各層の平均到達度を表わしている。

到達度分布



出題内容と結果

問題番号			出題内容	全県 (%)	A層 (%)	B層 (%)	C層 (%)	D層 (%)	A層 D層 の差	無解 答率
番号	大問	小問								
1	1	1	副詞の用法についての理解	80.4	89.5	82.4	73.6	55.2	34.3	0.1
2	1	2	文脈に即した内容の理解	53.7	58.5	53.0	53.4	41.3	17.2	0.2
3	1	3	状況をとらえた内容の理解	88.8	97.5	92.1	81.1	57.5	40.0	0.2
4	1	4	情景をとらえた内容の理解	81.9	98.2	89.6	63.2	25.8	72.4	0.5
5	1	5	文脈に即した内容の理解	82.8	99.0	91.2	62.6	26.7	72.3	0.7
6	1	6	内容の把握及び記述	60.2	86.6	65.6	35.1	8.4	78.2	6.0
7	2	1	構成をとらえた記述	20.1	52.3	15.6	2.4	0.3	52.0	9.7
8	2	2	指示語の用法についての理解	76.3	89.2	83.1	60.9	29.3	59.9	0.4
9	2	3	適切な接続詞の選択	48.3	75.9	48.3	28.4	17.3	58.6	0.4
10	2	4	展開をとらえた内容の理解	55.5	87.0	57.2	29.7	17.8	69.2	1.0
11	2	5	構成をとらえた記述	44.3	80.7	45.0	16.6	2.1	78.6	7.4
12	2	6	内容をとらえた言い換え	38.7	71.8	38.7	14.2	3.4	68.4	19.3
13	3	1	用紙の使い方の理解	73.9	91.7	78.1	57.8	30.3	61.4	4.0
14	3	2	修飾語及び被修飾語（関係）の知識	80.2	96.1	84.9	64.8	38.7	57.4	1.5
15	3	3	主語と述語（関係）の知識	56.3	88.2	58.7	30.5	10.3	77.9	1.9
16	3	4	漢字を正しく書く	78.1	97.5	85.9	57.0	17.9	79.6	9.5
17	3	4	漢字を正しく書く	81.1	96.0	87.2	66.9	26.9	69.1	6.4
18	3	4	漢字を正しく書く	50.7	81.5	53.9	24.5	5.4	76.1	9.6
19	3	4	漢字を正しく書く	43.7	78.7	45.3	15.5	1.9	76.8	25.0
20	3	5	漢字を正しく読む	27.0	67.1	22.3	3.5	0.6	66.5	17.0
21	3	5	漢字を正しく読む	66.6	95.0	75.3	34.9	5.2	89.8	10.4
22	3	5	漢字を正しく読む	73.6	98.3	84.9	41.3	7.0	91.3	9.5
23	3	5	漢字を正しく読む	16.7	44.4	12.7	1.7	0.0	44.4	29.8
24	3	6	ローマ字を正しく読む	69.6	96.6	78.2	39.1	10.3	86.3	15.2
25	4	1	集材及び選択	41.3	76.0	41.1	16.1	4.2	71.8	8.6
26	4	2	条件に沿った記述	45.4	77.0	45.7	22.5	7.0	70.0	11.0

* 各問いの全県の割合は正答，準正答の児童生徒の人数の割合(通過率)を表わし，各問いのA層～D層は，教科の最高到達度と最低到達度を均等に4段階のポイントに分け，上位から順にA層～D層として各層の問いごとの通過率を表わしている。

課題と手立て

書くことの指導では書く材料を集めたり、選んだり、条件に即して書いたりする指導が大切

書くことの領域の平均到達度は 53.5%という結果であった。問題別では、原稿用紙の使い方に関する大問3の1が 73.9%、書く材料を集め選択する大問4の1が 41.3%、条件に即して書く大問4の2が 45.4%であった。原稿用紙の使い方についての通過率は高かったものの、誤答として句読点の使い方が間違っていたり、1行目の1ます目をあけていなかったりするものがあった。また、自分が感じたことや自分の考えを書く問題については、誤答として条件に合わなかったり、条件を満たしていても文章全体の意味が通じなかったりするものが多かった。そこで指導に当たっては、相手や目的を考えさせたり、自分の考えや感想を明確にさせたりすることが大切である。たとえば、条件や目的に即して書かれているかを確認させるような指導も重要である。大問4の2の無解答率が 11.0%であった点も考慮し、書くための意欲をもたせるような指導も大切である。何のために書くのか、ねらいを明確にすることで書くことについて児童に必要性をもたせるような指導の工夫が望まれる。句読点の使い方については、低学年の言語事項の指導事項となっており、読むことの領域と同様に言語事項と関連を図った指導を行うことが重要である。

読むことの領域では、叙述をもとに場面の移り変わりや構成をとらえさせる指導が大切

読むことの領域の平均到達度は 60.9%であった。問題別では大問2の1の構成をとらえる問題の通過率が 20.1%と最も低く、同じく6の内容をとらえ言い換える問題が 38.7%と低かった。内容が文章全体の中でどのような役割を果たしているかを考えたり、筆者が言いたかったことを自分の言葉で表現したりする問題であったが、誤答として文章全体のはたらきではなく、傍線部を説明する解答が多く見られた。また、条件を把握して表現することができていない解答も多かった。このほか適切な接続語を選択する大問2の3が 48.3%、文脈に即した理解を問う大問1の2が 53.7%の通過率となっており課題が残されている。そこで今後の指導に当たっては、目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読む能力や、記述をもとに場面の移り変わりをとらえること、目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要に応じて細かな点に注意したりしながら読む指導を行うことが必要である。また読むことの指導の中で言語事項との関連を重視し、語彙力を高めることも重要である。全体として、選択肢の問題は通過率が高く、記述で答える問題の通過率が低かったことも課題の一つに挙げられる。特に大問2の6については無解答率が 19.3%と他の問題と比較して極端に高くなっている。国語科の指導においては、領域の重点化を図ることが重要であるが、指導の方法として、内容を読むために書いたり、書くために読んだりするなど領域の関連を図った指導が望まれる。文学的文章に関する平均到達度が 74.6%であったのに対して、説明的文章は 47.2%であったことから、文学的文章での初読の感想を書かせ、説明的文章においても活用するなどの工夫が大切である。

言語事項については主述の関係をとらえさせるなど3領域との関連を図った指導が大切

言語事項の平均到達度は 58.5%という結果であった。問題別では漢字の書きについての大問3の4が 63.4%で、漢字の読みについての大問3の5が約 46%であった。また、修飾被修飾の関係についての大問3の2は 80.2%であったのに対して、主述の関係についての大問3の3は 56.3%という結果であった。過去の調査と同一問題であるローマ字に関する大問3の6は 69.6%で平成 15 年度の調査結果約 69%とほぼ同じ結果となった。漢字の読み書きについての誤答では便乗を「ベンジョウ」と読む誤りが多かった。難易度の高い問題ではあったが、この問題の通過率は 16.7%と極端に低かった。そこで指導に当たっては、3領域との関連を図りながら、語と語の関係を理解させたり、文章中の漢字の使われ方や読み方の違う用例を示したりすること、また複数の音訓についての指導を重視することも必要である。

2 社会

分析の概要

資料活用に関する平均到達度は他の観点に比べてかなり低い

資料活用の平均到達度は 58.4% で、思考・判断の 78.1% に比べて 19.7 ポイント、知識・理解の 74.0% に比べても 15.6 ポイント低くなっている。今後は、授業の中で資料の見方や活用の仕方を丁寧に指導し、資料を活用して問題を解決する場面を積極的に取り入れていく必要がある。

生活を支えるものと都道府県の様子は生活の移り変わりに比べてかなり低い

生活を支えるものの平均到達度は 68.1% で、生活の移り変わりの 87.4% に比べて 19.3 ポイント低くなっている。また、都道府県の様子の平均到達度は 61.8% で、生活の移り変わりの 87.4% に比べて 25.6 ポイント低くなっている。この傾向は、平成 17、18 年度と同じである。今後は、地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や安全を守るための諸活動、地域の地理的環境についての確実な理解に重点を置いた指導が必要である。

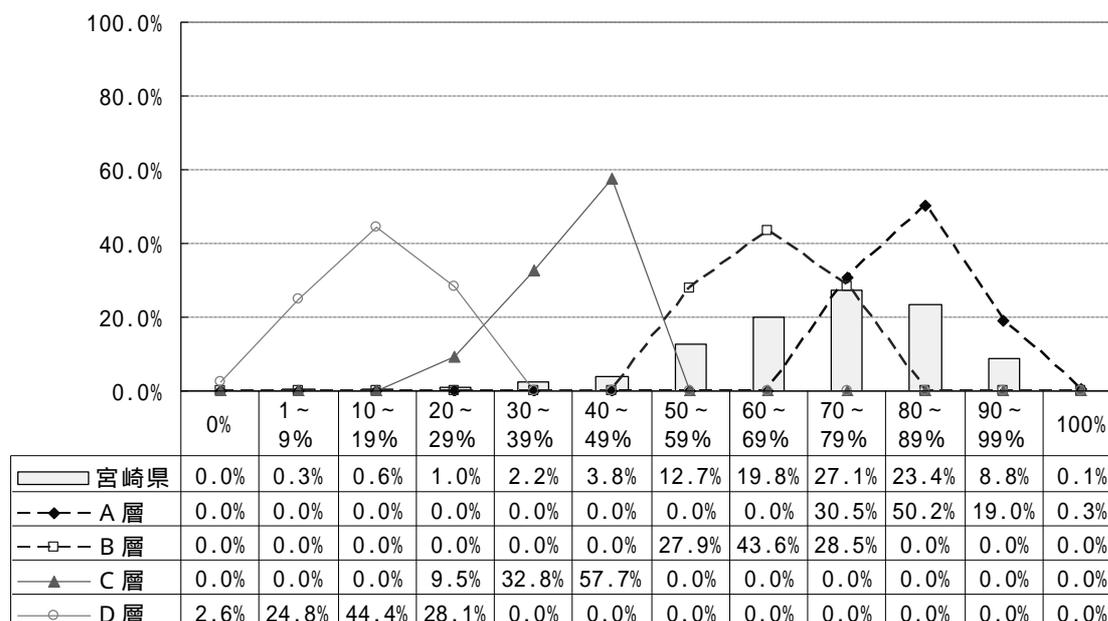
項目別平均到達度

項目		全県(%)	A層(%)	B層(%)	C層(%)	D層(%)	
平均到達度	教科全体	71.4	83.7	64.9	39.7	14.9	
	観点	思考・判断	78.1	90.2	72.6	43.6	16.5
		資料活用	58.4	71.5	50.3	30.8	15.3
		知識・理解	74.0	86.1	67.9	41.9	13.8
	領域	生活を支えるもの	68.1	81.4	61.0	35.1	13.4
		生活の移り変わり	87.4	95.3	85.5	59.5	20.0
		都道府県の様子	61.8	77.1	52.0	31.0	13.7

* 到達度は児童生徒が正答、準正答であった問題数の割合を表わし、平均到達度はその平均となる。

* 観点・領域の A 層～D 層は、教科全体の最高到達度と最低到達度を均等に 4 段階のポイントに分け、上位から順に A 層～D 層としたそれぞれの観点・領域の各層の平均到達度を表わしている。

到達度分布



出題内容と結果

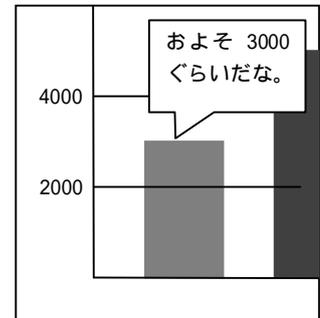
問題番号			出題内容	全県 (%)	A層 (%)	B層 (%)	C層 (%)	D層 (%)	A層 D層 の差	無解 答率
番号	大問	小問								
1	1	1	地図の読み取り	64.3	79.8	53.4	36.7	30.7	49.1	0.4
2	1	2	地図上での方角の読み取り	53.1	67.1	42.8	31.9	22.9	44.2	0.3
3	1	3	地図記号	65.1	84.1	53.6	22.2	8.5	75.6	10.4
4	1	3	地図記号	85.7	96.2	82.3	48.5	19.6	76.6	3.7
5	1	3	地図記号	64.1	82.9	52.6	21.5	9.8	73.1	8.8
6	2	1	消費者の願い, 店の工夫・努力	63.8	81.8	51.6	30.2	20.9	60.9	0.3
7	2	1	消費者の願い, 店の工夫・努力	76.5	91.3	69.2	35.0	14.4	76.9	1.1
8	2	1	消費者の願い, 店の工夫・努力	59.2	79.1	46.1	20.3	7.2	71.9	1.6
9	2	2	店の工夫・努力	74.3	88.2	68.6	29.9	6.5	81.7	6.7
10	2	3	調べ学習の方法	67.3	81.0	61.1	25.9	5.2	75.8	6.3
11	3	1	安全を守る道具	96.1	99.1	96.6	84.1	36.6	62.5	0.4
12	3	1	安全を守る道具	93.7	98.7	93.8	71.9	24.2	74.5	0.5
13	3	1	安全を守る道具	94.6	98.7	94.8	78.2	28.1	70.6	0.6
14	3	2	安全を守る仕事	64.8	80.6	55.3	29.6	10.5	70.1	1.2
15	3	2	安全を守る仕事	40.2	51.1	32.5	22.6	13.7	37.4	1.2
16	3	2	安全を守る仕事	82.7	95.2	78.4	39.0	7.8	87.4	1.4
17	3	2	安全を守る仕事	62.2	75.7	55.5	25.0	8.5	67.2	1.5
18	3	3	交通安全を守る道具	68.5	85.0	60.3	20.8	5.9	79.1	9.8
19	4	1	ゴミの始末の様子	94.2	99.0	93.8	75.0	33.3	65.7	0.2
20	4	1	ゴミの始末の様子	85.8	94.6	82.3	60.7	21.6	73.0	0.3
21	4	1	ゴミの始末の様子	86.5	94.8	83.5	62.2	20.9	73.9	0.5
22	4	2	ゴミの量の理由	86.6	96.2	84.5	46.7	22.9	73.3	1.2
23	5	1	棒グラフの読み取り	92.4	99.4	91.4	62.0	30.1	69.3	1.2
24	5	1	棒グラフの読み取り	91.4	99.1	90.3	58.0	25.5	73.6	1.4
25	5	2	棒グラフからの計算	12.3	21.5	5.0	0.4	0.0	21.5	4.3
26	5	2	棒グラフからの計算	30.7	48.5	16.9	6.4	1.3	47.2	4.6
27	5	2	棒グラフの読み取り	51.1	70.0	38.9	12.0	0.7	69.3	5.4
28	5	2	棒グラフの読み取り	54.5	75.5	40.9	11.8	1.3	74.2	5.7
29	5	3	飲料水が届く仕組み	77.8	92.7	70.5	36.8	7.8	84.9	1.4
30	5	3	飲料水が届く仕組み	93.6	99.0	94.5	66.2	8.5	90.5	1.3
31	5	3	飲料水が届く仕組み	59.1	75.7	49.2	20.9	7.2	68.5	1.7
32	6	1	昔の道具と今の道具	84.8	94.5	82.2	49.7	12.4	82.1	0.8
33	6	1	昔の道具と今の道具	86.3	95.4	83.9	53.1	17.0	78.4	0.8
34	6	2	昔と今の生活の様子	83.5	91.9	80.8	56.6	15.7	76.2	1.1
35	6	2	昔と今の生活の様子	96.2	99.5	97.5	78.7	23.5	76.0	1.0
36	6	2	昔と今の生活の様子	82.9	91.5	80.5	52.5	12.4	79.1	1.2
37	7	1	宮崎県の周りの県	70.0	85.4	60.6	36.3	16.3	69.1	1.3
38	7	1	宮崎県の土地の様子	75.3	86.5	69.8	45.5	17.0	69.5	1.4
39	7	1	宮崎県の土地利用	59.2	67.9	53.6	43.8	23.5	44.4	1.6
40	7	2	宮崎県の市町村	39.5	56.0	27.9	8.8	4.6	51.4	2.2
41	7	2	宮崎県の人口	61.8	85.0	45.4	21.2	11.1	73.9	1.7
42	7	2	宮崎県の県木・県花	65.2	81.8	54.9	30.2	9.8	72.0	1.5

* 各問いの全県の割合は正答, 準正答の児童生徒の人数の割合(通過率)を表わし, 各問いのA層~D層は, 教科の最高到達度と最低到達度を均等に4段階のポイントに分け, 上位から順にA層~D層として各層の問いごとの通過率を表わしている。

課題と手立て

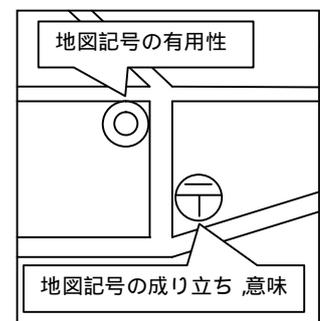
棒グラフからの計算は 87.7% が誤答

棒グラフをもとに、変化の様子を計算で求める問題の通過率は 12.3% と最も低かった。誤答も多岐にわたり、特徴的なものがみられないことから、グラフの読み取りに課題があると考えられる。授業では、資料の見方や活用の仕方を丁寧に指導する必要がある。また、グラフや統計などの資料を活用する場合には、算数で身に付けた力も必要となることから、関連的な指導も大切である。今回は変化の様子を計算で求める問題が二つ出題されている。片方は目盛りから該当する値を読み取ることができるが、もう一方は二つの目盛りから大まかな値を見当づける必要がある。この二つの問題を比較すると、後者の問題の通過率が極端に低いことから、グラフの二つの目盛りをもとに、該当する値を大まかな数値としてとらえることができていない事に原因があると推測される。授業においては、グラフの目盛りをもとに大まかな数値でグラフの変化を把握させる場面を意図的に設定することが大切である。



地図記号の指導の充実が必要

地図記号の問題が三題あり、そのうちの 2 題が通過率 65.1%、64.1% で、無解答率も 10.4%、8.8% であった。地図上での方位の読み取りの通過率は 53.1% であった。地図記号や方位については、過去の基礎学力調査の分析でも、一層の指導の充実が必要であると指摘されている。授業において地図を積極的に活用し、地図記号や方位などの基本的事項については繰り返し指導する機会を設け、その確実な定着を図る必要がある。その場合、地図記号を用いる際の有用性（例えば「地図は限られた紙面に多くの情報を示さなければならないので、文字を省略して記号にした方がいい」等）をしっかりと認識させた上で、成り立ちや意味を考えさせたり、白地図に地図記号を書き込ませたりする活動を積極的に取り入れることが大切である。



宮崎県の全体の様子についての理解が課題

大問 7 は、平成 15 年度の基礎学力調査の問題とほぼ同じである。本年度の結果との比較から、県の土地全体の様子を概観したり、山地や平地の広がりや川などの地形と自然の様子を理解したりすることが十分でないことが指摘できる。また、宮崎県の土地利用、宮崎県の市町村の問題については、A 層の児童の通過率もそれぞれ 67.9%、56.0% と低くなっている。このことから、授業においては県の白地図に山地や平地を色分けさせたり、主な平野、盆地、山地、川などを書き込ませたりするなどの作業的な学習を積極的に取り入れて、視覚的にとらえさせながら県全体の様子を概観させ、地形と自然の様子を確実に理解させることが大切である。また、小学校社会科副読本「わたしたちの宮崎県 住みよい郷土の暮らし」の活用にあたっては、指導の意図や児童の実態等を考慮して、各学校で柔軟に対応することが大切であり、年間指導計画の工夫が今後求められる。

児童の興味関心を引き出す工夫が必要

後述する意識調査では、社会科の授業が好きと答えた児童は 63.2% で、昨年度より 9.9 ポイント高くなっている。社会科の授業がわかると答えた児童は 84.4% で、昨年度より 9.9 ポイント高くなっている。

いずれも、興味・関心・意欲にかかわるものであり、各学校、各教師が児童の実態を十分把握し、児童の興味関心を引き出す工夫を今後もなお一層図っていく必要がある。

3 算数

分析の概要

小数の加法・減法，四則計算等の計算力については向上してきている

これまでの学力調査と比較すると，小数の加法・減法，3位数÷2位数，四則の混合した計算については通過率が上がってきている。ただし，商に空位がある除法や，余りのある除法の確かめについては通過率がやや低い。乗除の意味の理解を深めさせていくことが大切である。

数学的な考え方に関する平均到達度は他の観点に比べて低い

式をよみとって図に表現したり，図に表現された考えを式に表したり，表や図をよみとって問題解決に生かしたりするなどの数学的な考え方が他の観点より低くなっている。授業で多様な考え方をさせたり，それぞれの考え方やそのよさについて理解させたりしていく場を設定していくことが大切である。

量と測定，図形の平均到達度は他の領域よりも低い

正方形の求積や正三角形の性質，円の中心，直径，半径の関係などの量と測定，図形の領域が他の領域より低くなっている。図形をかいたり，切ったり，重ねたり，敷き詰めたりするなどの操作活動を通して，実感をともなった理解ができるようにしていくことが必要である。

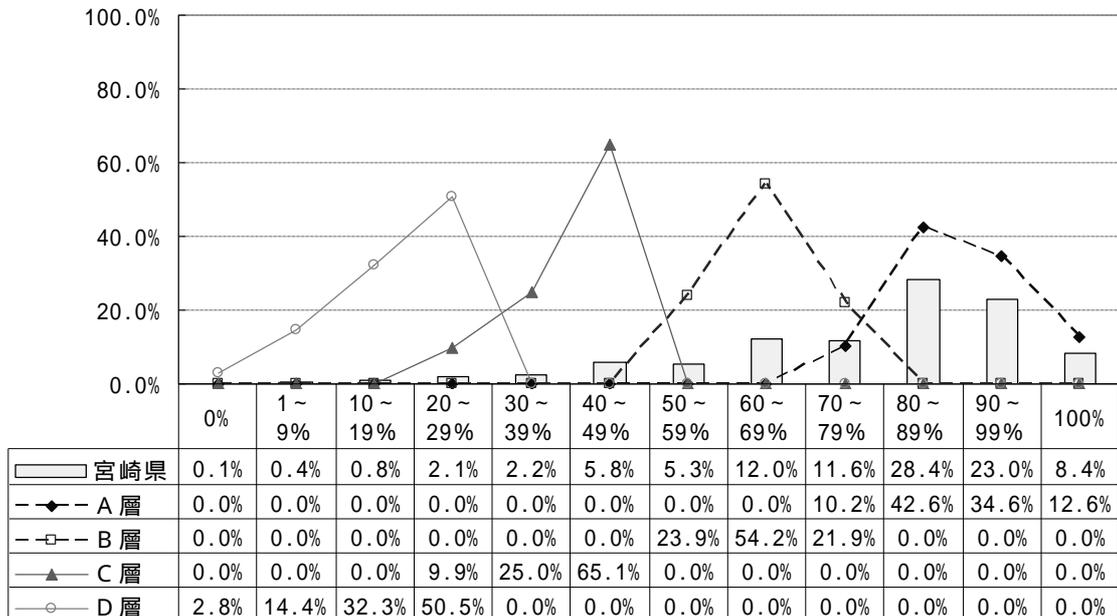
項目別平均到達度

項目		全県(%)	A層(%)	B層(%)	C層(%)	D層(%)	
平均到達度	教科全体	77.2	88.9	63.6	40.2	16.9	
	観点	数学的な考え方	70.1	84.8	51.4	23.5	5.9
		表現処理	81.7	90.9	71.3	53.1	26.6
		知識理解	78.6	90.5	65.9	38.7	13.7
	領域	数と計算	80.6	90.6	69.9	47.5	23.3
		量と測定	70.4	86.0	48.0	25.9	8.0
		図形	74.6	84.9	61.7	45.1	19.2
		数量関係	79.2	90.9	67.8	38.2	13.5

* 到達度は児童生徒が正答，準正答であった問題数の割合を表わし，平均到達度はその平均となる。

* 観点・領域のA層～D層は，教科全体の最高到達度と最低到達度を均等に4段階のポイントに分け，上位から順にA層～D層としたそれぞれの観点・領域の各層の平均到達度を表わしている。

到達度分布



出題内容と結果

問題番号			出題内容	全県 (%)	A層 (%)	B層 (%)	C層 (%)	D層 (%)	A層 D層 の差	無解 答率
番号	大問	小問								
1	1	1	小数の加法の計算	97.8	98.7	97.1	96.2	87.0	11.7	0.1
2	1	2	小数の減法の計算	90.8	95.2	86.6	79.5	51.6	43.6	0.1
3	1	3	3位数÷1位数の計算	73.4	84.5	61.7	37.5	8.1	76.4	1.2
4	1	4	3位数÷2位数の計算	80.3	91.1	71.3	41.7	8.1	83.0	2.6
5	1	5	四則の混合した計算	81.1	90.1	71.5	53.4	24.6	65.5	0.8
6	2	1	分数の大小	62.0	75.4	43.1	23.2	6.7	68.7	0.6
7	2	2	小数の相対的な見方	89.8	96.9	84.2	65.9	31.6	65.3	1.2
8	2	3	十進位取り記数法の意味	83.3	94.2	75.0	41.4	12.3	81.9	1.0
9	2	4	四捨五入の理解	69.8	86.6	46.1	21.2	4.6	82.0	1.9
10	2	5	被除数，除数，商及び余りの間の関係	78.0	93.1	63.9	21.3	0.4	92.7	7.1
11	3	1	分度器を使っての角の大きさの測定	83.7	93.7	74.8	49.7	16.1	77.6	0.7
12	3	2	正方形の面積	77.3	89.1	62.3	42.4	15.1	74.0	1.2
13	3	2	長方形の面積	55.0	75.0	21.1	4.3	0.4	74.6	2.5
14	3	3	複合図形の面積（式をよみとる）	76.8	92.4	56.7	28.3	8.4	84.0	7.1
15	3	3	複合図形の面積（図から式を求める）	59.2	79.8	25.2	4.9	0.0	79.8	5.0
16	4	1	二等辺三角形の性質	88.6	96.7	83.0	59.2	26.7	70.0	1.0
17	4	2	正三角形の性質	73.1	87.4	53.6	32.3	7.0	80.4	3.5
18	4	3	正三角形の作図	93.7	98.1	92.2	79.8	38.6	59.5	1.3
19	4	4	円の半径と直径との関係	43.0	57.3	18.0	8.9	4.6	52.7	4.1
20	5	1	折れ線グラフをかく	90.6	95.8	87.1	75.1	36.5	59.3	1.9
21	5	1	折れ線グラフの変化の様子	74.6	89.1	58.3	25.1	6.0	83.1	1.0
22	5	2	伴って変わる数量の変化をよみとる	83.9	95.4	77.3	35.6	6.0	89.4	4.2
23	5	2	伴って変わる数量の対応の仕方をよみとる	75.0	89.7	61.6	18.5	1.4	88.3	5.5
24	5	3	二次元の表を使って調べる	74.3	86.8	61.9	29.7	6.7	80.1	3.1
25	5	4	()を含む式が表す場面を選択する	75.3	89.6	57.3	29.9	13.3	76.3	2.9

* 各問いの全県の割合は正答，準正答の児童生徒の人数の割合(通過率)を表わし，各問いのA層～D層は，教科の最高到達度と最低到達度を均等に4段階のポイントに分け，上位から順にA層～D層として各層の問いごとの通過率を表わしている。

課題と手立て

除法については、答えの確かめを通して、意味の理解を深めることが大切

商に空位がある筆算 $436 \div 4$ の大問 1 の 3 の通過率が 73.4%で、平成 16 年度学力調査よりも約 3 ポイント下がっている。誤答は 190, 19 が多かった。また、余りのある除法の確かめをする大問 2 の 5 では、D 層の通過率が 0.4%と低く、下位層の児童の理解が不十分であることが分かった。そこで、計算の仕方については繰り返し指導することが大切であり、児童のつまずきに応じた個別指導の充実を図ることが必要である。また、求めた答えの確かめを通して、除法と乗法や、被除数、除数、商、余りの関係をとらえさせ、乗除の意味の理解が深まるように指導していくことが大切である。さらに、 $436 \div 4$ の答えは 100 に近い数になるというような計算結果を見積もることができるようにすることも重要である。

分数と整数の大小関係については丁寧な指導が必要

整数、分数を小さい順にならべる大問 2 の 1 の通過率が 62.0%で、大きい順にならべている誤答、整数の位置が違う誤答が多かった。そこで、整数及び分数を単位分数の幾つ分というとらえ方で大きさを理解できるようにするとともに、特に分数と整数の大小関係については丁寧な指導が必要である。

正方形や長方形の面積の公式の意味について理解させることが必要

正方形の面積を求める大問 3 の 2 の通過率は 77.3%と低く、誤答は、まわりの長さを求めたり、一辺の長さを 2 倍したりしているものが多かった。そこで、一辺が 1 cm の正方形を敷き詰め、その個数を求めるところから、公式が導かれていることをしっかりと理解させることが必要である。

式や考え方をよみとるような授業を展開することも大切

複合図形の面積について、式をよみとる大問 3 の 3、図から式を求める大問 3 の 3 の通過率はそれぞれ 76.8%、59.2%で、特に下位層の児童の通過率が低く、無解答率も高かった。面積を求めることについては慣れているものの、その式の意味や考え方をよみとることは抵抗があると考えられる。また、式から問題を選択する大問 5 の 4 の通過率は 75.3%で、平成 16 年度学力調査よりも約 4 ポイント下がっている。そこで、場面から立式して答を求めるだけでなく、式から場面や一般的な関係をよんだり、問題を作成したりするような学習を通して、多様な考え方をさせたり、それぞれの考え方やそのよさについて理解させたりしていくことが大切である。

作図したり、図形を操作したりしながら図形の用語や性質を理解させることが大切

折り紙を重ねるように折り、その紙を切って正三角形をつくり、一辺の長さを求める大問 4 の 2 の通過率は 73.1%で、誤答としては 4 cm が多かった。紙を開いたイメージがもてなかった児童が多かったと考えられる。また、大中小の 3 つの円の直径が重なり、中小の円の直径から大の円の半径を求める大問 4 の 4 の通過率は 43.0%と最も低かった。誤答としては 10 cm が多く、直径を求めたと考えられる。4 cm、16 cm の誤答も多く、中心の位置や直径と半径との関係が理解できていないと考えられる。そこで、定規やコンパスでデザインしたり、角や長さを実測したり、図形を切ったり重ねたりする活動を通して、図形の用語や性質の理解を深められるように指導していくことが大切である。

伴って変わる数量の変化や二次元表をよみとる力の育成が必要

伴って変わる数量の変化をよみとる大問 5 の 2 の通過率は 75.0%で、誤答は変化の値の 6 cm が多かった。二次元表に関する大問 5 の 3 の通過率は 74.3%で、誤答は東町の子どもの人数 12 を求めていたものが多かった。どちらも平成 16 年度学力調査の類似問題より約 5 ポイント下がっている。そこで、数量の変化の様子や対応の仕方については、表を横にみて変化の規則性を見つけたり、縦にみて対応の規則性を見つけたりする学習を通して、関数的な見方・考え方を育成していくことが大切である。また、二次元表については、実際に調査活動を通して表にまとめる学習によって行い理解を深めさせることが必要である。変化の様子や表にまとめることについては、他教科とも関連を図って指導していくことが重要である。

4 理科

分析の概要

科学的思考に関する平均到達度は他の観点に比べて低い

科学的思考の平均到達度は 59.7% で、知識・理解の 69.7% に比べ 10.0 ポイント低くなっている。平成 17 年度と同じ傾向であるが、差はかなり小さくなった。今後も、授業の中で実験結果の予想や実験後の考察を重視し、学習内容を生活や他の事象にあてはめて考えさせる場面の設定が大切である。

地球と宇宙は他の領域に比べて低い

地球と宇宙の平均到達度は 52.2% で、最も平均到達度の高い領域の生物とその環境の 81.2% に比べて 29.0 ポイント低くなっている。平成 17 年度と同じ傾向であるが、差は大きくなった。地球と宇宙については、時間・空間概念の必要な領域であるので、授業において、モデルやデジタルコンテンツの利用が重要である。

記述問題は無解答率が高い

解答形式ごとの無解答率は、用語記述が 5.5%、文章記述が 4.5% で、他の解答形式に比べ高い。日ごとの授業で文章の形で記述する習慣をつけさせる必要がある。

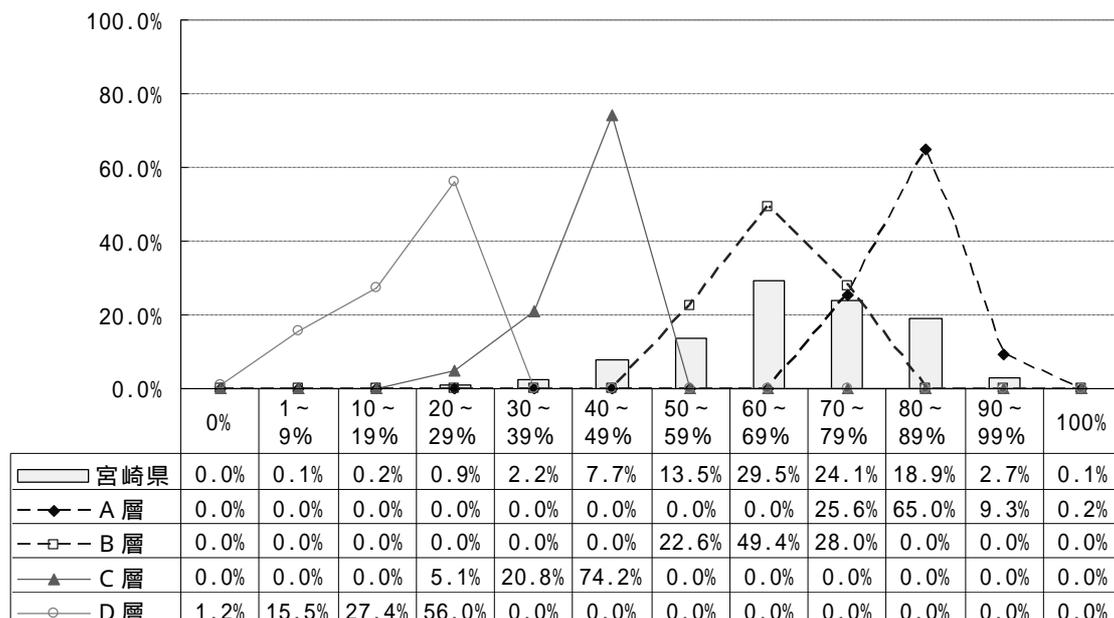
項目別平均到達度

項目		全県 (%)	A 層 (%)	B 層 (%)	C 層 (%)	D 層 (%)	
平均到達度	教科全体	67.2	82.7	64.7	42.1	17.1	
	観点	科学的思考	59.7	76.8	56.2	35.1	14.1
		技能・表現	67.4	82.3	64.8	43.4	21.4
		知識・理解	69.7	84.8	67.5	43.9	16.7
	領域	生物とその環境	81.2	92.9	80.2	58.0	24.3
		物質とエネルギー	65.8	82.6	63.1	37.6	15.4
		地球と宇宙	52.2	70.6	48.0	27.7	10.4

* 到達度は児童生徒が正答、準正答であった問題数の割合を表わし、平均到達度はその平均となる。

* 観点・領域の A 層～D 層は、教科全体の最高到達度と最低到達度を均等に 4 段階のポイントに分け、上位から順に A 層～D 層としたそれぞれの観点・領域の各層の平均到達度を表わしている。

到達度分布



出題内容と結果

問題番号			出題内容	全県 (%)	A層 (%)	B層 (%)	C層 (%)	D層 (%)	A層 D層 の差	無解 答率
番号	大問	小問								
1	1	1	チョウの育ち方	85.7	96.6	86.3	56.0	26.2	70.4	0.1
2	1	1	バッタの育ち方	79.6	94.3	79.0	46.1	21.4	72.9	0.1
3	1	2	昆虫の体のつくり	89.7	96.3	89.2	77.7	45.2	51.1	0.4
4	1	3	生き物が生活する場所	95.7	99.6	97.2	80.5	29.8	69.8	0.1
5	1	3	生き物が生活する場所	88.6	97.5	88.9	67.1	21.4	76.1	0.2
6	1	3	生き物が生活する場所	88.5	97.6	88.4	68.0	19.0	78.6	0.1
7	1	3	生き物が生活する場所	94.1	99.2	95.3	78.0	26.2	73.0	0.2
8	1	4	昆虫の体のつくり	68.6	88.7	66.1	30.7	15.5	73.2	3.4
9	2	1	冬越しの仕方	80.3	94.0	79.0	54.6	13.1	80.9	0.3
10	2	1	冬越しの仕方	87.2	95.5	87.0	68.8	29.8	65.7	0.2
11	2	2	ツバメの生活	44.0	71.9	36.8	10.2	2.4	69.5	6.4
12	3	1	種の形	73.1	83.2	70.5	61.9	35.7	47.5	0.2
13	3	2	種のまき方	80.5	93.4	79.3	54.4	29.8	63.6	0.3
14	4	1	磁石の力	65.5	89.9	61.6	22.9	8.3	81.6	0.3
15	4	2	磁石の力	58.9	78.7	55.3	28.3	8.3	70.4	0.2
16	4	3	磁石の力	33.7	58.8	26.3	8.1	3.6	55.2	6.5
17	5	1	金属の温まり方	82.4	93.9	82.3	55.0	19.0	74.9	0.4
18	5	2	水の温まり方	23.0	39.9	17.1	10.5	11.9	28.0	0.2
19	6	1	電流の流れ方	70.7	84.0	68.1	52.1	19.0	65.0	0.4
20	6	2	電流の流れ方	79.2	91.9	77.9	55.1	17.9	74.0	0.5
21	6	3	光電池の電流	89.4	97.5	90.5	64.4	23.8	73.7	0.4
22	6	4	電池のつなぎ方	65.1	91.1	60.5	22.1	21.4	69.7	0.4
23	6	5	電池のつなぎ方	73.9	89.2	72.7	41.9	10.7	78.5	1.8
24	6	6	回路のつながり	82.2	94.3	82.1	52.7	25.0	69.3	1.8
25	7	1	温度計の読み方	89.3	97.6	89.4	69.1	39.3	58.3	0.3
26	7	2	温度計の読み方	33.3	50.7	28.3	15.2	3.6	47.1	0.8
27	7	3	太陽の動きと影	89.5	97.0	89.9	70.8	31.0	66.0	0.6
28	7	4	太陽の観察	26.2	44.8	20.8	6.3	1.2	43.6	25.3
29	7	4	太陽の観察	62.9	85.4	59.0	26.7	3.6	81.8	6.8
30	8	1	月や星の見え方	14.8	25.1	11.7	4.3	3.6	21.5	0.6
31	8	2	冬の星	61.8	82.4	57.8	30.7	17.9	64.5	0.9
32	8	3	星座の特徴や名前	80.0	95.3	79.9	43.2	6.0	89.3	3.0
33	9	1	水の沸騰	50.2	76.4	43.3	19.9	2.4	74.0	4.4
34	9	2	水の変化	35.4	63.4	26.3	11.8	3.6	59.8	3.6
35	9	2	水の変化	30.4	58.6	21.2	6.6	2.4	56.2	4.6

* 各問いの全県の割合は正答、準正答の児童生徒の人数の割合(通過率)を表わし、各問いのA層～D層は、教科の最高到達度と最低到達度を均等に4段階のポイントに分け、上位から順にA層～D層として各層の問いごとの通過率を表わしている。

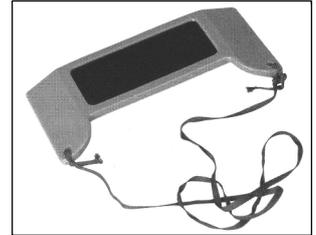
課題と手立て

月や星の見え方は85.2%が誤答、文章を読み取る力に課題

月や星の見え方を総合的に問う問題で、通過率は14.8%と最も低かった。誤答は、正答であるウの「星には、いろいろな明るさの星やいろいろな色の星がある」や、オの「半月が見られた後、約1週間で満月が見られる」の一方だけを答える場合や、イの「月は太陽と同じように西から出て東に沈む」を正しいと判断するが多かった。選択肢の内容をしっかりと読み取れなかったことが原因として推測できる。日頃から、授業で児童が記述した内容や発言した内容に関して、どこが正しく、どこが誤っているか、具体的に指摘しながら指導する必要がある。

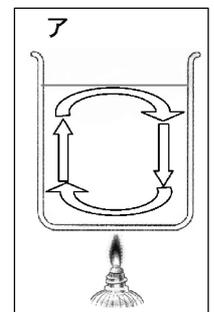
遮光板は73.8%が誤答、実験器具等の名称も重要

右図の遮光板の名称を問う問題で、通過率26.2%、無解答率が25.3%であった。誤答は、「日光板」「太陽めがね」などが多い。遮光板の役割を問う問題は通過率が62.9%で、何のために使うか理解しているにもかかわらず、その名前が答えられない。平成15年度に同一問題が出題されているが、通過率18.2%、無解答率が31.4%で改善の傾向は見られる。授業で、実験・観察器具の正確な名称を教師自身が使い、指導することが大切である。



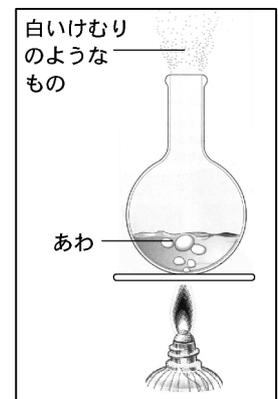
水の温まり方は77.0%が誤答、原理、法則をあてはめる力の育成が必要

水の対流の様子を図で選ぶ問題で通過率は23.0%であった。平成17年度に同一問題が出題され、通過率は18.7%と低かったが、今年度は平成17年度に比べて4.3ポイントと改善が見られた。誤答はアが最も多くこの傾向は17年度と変わらない。教科書と異なる図に「温められた水は上へ移動する」という規則性を適用できないことが原因と考えられる。学習した内容を、別の状況や生活にあてはめたり、事象を予測させたりする場面を授業に設定することが大切である。



水の変化の平均到達度は30.4%、微視的な現象の理解は図が効果的

「ゆげは水蒸気が空気中で冷えてできたもの」を問う問題で、通過率は30.4%であった。「白いけむりのようなものをゆげと呼ぶ」を問う問題も通過率は35.4%と約4割に満たない。誤答は「ゆげは水が空気中で冷えてできたもの」が多く、「白いけむりのようなものを水蒸気と呼ぶ」も多かった。「気体である水蒸気は見えない」を前提に、水と水蒸気、ゆげと水蒸気の違いを図や絵を使って児童がまとめながら理解することが大切である。



図や表からわかることと考えられることを区別する指導が必要

右図からわかることを書く問題で、通過率は44.0%で無解答率6.4%であった。誤答として「ツバメが移動する」や「暖かいところへ移動する」など図から読み取れない内容を記述したものが多かった。図から読み取れること、自分で考えたことをしっかりと区別する指導が必要である。特に、授業では実験結果(五感を使って認識できたこと)と考察(結果に知識を加えて判断したこと)を厳密に分けて日頃から指導する必要がある。



過去と同一問題の14問のうち10問は通過率が上昇

過去の同一問題との比較を行うと14問のうち10問は通過率が上昇している。しかし、それぞれの通過率の平均は、過去の問題で79.0%、本年度80.2%とほとんど変わっていない。